

【年間テーマ： 認知症ケアについて 】

平成 27 年 8 月 15 日提出

日付	平成 27 年 8 月 8 日 (土)		
場所	ホテル セントラーザ博多	記録者名： 梶島 和代	
出席者 (敬称略)	有吉病院 能登 かなこ	稲築病院 田中 智恵	北九州古賀病院 花田 枝美子
	北九州八幡東病院 高尾 和子	戸畑けんわ病院 堀之内 薫	東福岡和仁会病院 荒木 里子
	東福岡和仁会病院 別府 憲一	福岡みらい病院 大田 香織	緑ヶ丘病院 梶島 和代
テーマ	帰宅願望、離院等の対策		
結論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離院についての事後対応策では、結局抑制に繋がっているのではないか。帰宅願望に対し、どの様に納得してもらうかが要点となる。 ・ 『御家族の協力』 及び 『患者さんとの信頼関係を築くこと』 が重要となる。 		
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 24 時間行動チェックシートを作成し、行動パターンから行動理由を把握した後、対応策を検討する。 ・ 居心地の良い環境づくりを心掛ける事で、帰宅願望を緩和させる。 		
備考	<p>各病院対応策より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の協力により、在宅時に近い環境をつくる (リネン等) ・ 外出、外泊、散歩等により、気分転換を図る。 ・ 詰所内にて会話をする。 ・ 離院の可能性がある患者さんの顔写真をバックヤードに貼り出す事で、職員へ注意喚起を行う。 ・ 外国人患者の例から、言葉が通じない等の理由で患者が孤立化する事を防ぐ事も重要。 		
次回討論項目	ナースコールの多い患者様の対応		

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@fukuokakenryo.jp

(FAX.092-691-3961)